

平成 29 年度

# 事業報告書

自 平成 29 年 1 月 1 日

至 平成 29 年 12 月 31 日

公益財団法人 競走馬理化学研究所

## 平成 29 年度事業報告

### I 事業の概要

平成29年の日本経済は、世界経済が安定的に推移する中で、緩やかな回復を続けた。また、中央競馬・地方競馬にあつては、競馬番組や発売網の充実が図られており、前年を上回る実績を達成している。

こうした状況下、競走馬理化学研究所は、高い技術水準と確かな信頼性に基づく検査、及び競馬の国際化に伴う事業の高度化を推進する研究を実施し、わが国の競馬の公正確保に不可欠な機関としての役割を果たした。

薬物検査事業においては、競馬主催者、飼料業者等からの依頼に応じて、競走馬、騎手、飼料等を対象とする検査を実施した。このうち騎手の薬物検査は、4月からすべての競馬主催者に拡大して実施した。

また、競走馬薬物検査の品質保証については、ISO/IEC 17025 認定の維持及び範囲拡大に取り組んだ。

DNA 型検査事業においては、血統登録機関等からの依頼に応じて、軽種馬の親子判定及び個体識別検査等を実施した。

研究事業においては、日本中央競馬会から委託された「治療薬物の休薬期間の設定に関する研究」、「競走馬の呼吸器疾患における遺伝学的調査・研究」等の4テーマについて取り組んだ。

一般化学分析事業においては、馬伝染性子宮炎の検査、競走馬の遺伝子検査、治療薬物の血中濃度の測定等を実施した。

さらに、日本中央競馬会の助成による「薬物検査体制の国際標準化事業」及び「競走馬の遺伝子ドーピング及び遺伝的健全性対策事業」においては、それぞれの年次計画に従って、分析機器の導入及び検査法の開発研究を実施した。特に、「薬物検査体制の国際標準化事業」で当初計画した国際競馬統括機関連盟（IFHA）による薬物検査機関の指定に先だつて、国際馬術連盟（FEI）による指定に向けた申請準備に取り組んだ。

## II 業務関係

### 1 競走馬の薬物検査に関する事業

#### 1) 競走馬の薬物検査

##### (1) 禁止薬物の検査（レース分）

検査件数 44,319 件  
陽性件数 2 件

##### 中央競馬

競馬場	検査件数	競馬場	検査件数	競馬場	検査件数
札幌	432	中山	1,478	阪神	1,513
函館	432	東京	1,617	小倉	720
福島	720	中京	937	小計	10,373
新潟	937	京都	1,587	再検査	0
				計	10,373

##### 地方競馬

競馬場	検査件数	競馬場	検査件数	競馬場	検査件数
帯広	3,411	大井	3,244	姫路	0
門別	2,005	川崎	1,969	高知	3,179
盛岡	1,457	金沢	2,034	佐賀	2,533
水沢	1,633	笠松	2,080	小計	33,944
浦和	1,644	名古屋	2,720	再検査	2
船橋	1,795	園田	4,240	計	33,946

##### (2) 規制薬物の検査（レース分）

検査件数 2,670 件（中央競馬 1,937 件、地方競馬 733 件）  
陽性件数 5 件

##### (3) 競技外検査

検査件数 5,434 件（中央競馬 5,209 件、地方競馬 225 件）  
陽性件数 0 件

## 2) 飼料等の薬物検査

検査件数 845 件  
陽性件数 10 件

区 分	カテゴリーA	カテゴリーB	イプラトロピウム	計
日本中央競馬会	23	0	23	46
岩手県競馬組合	1	5	0	6
飼料業者等	303	261	229	793
計	327	266	252	845

注) カテゴリーA：イプラトロピウムを除く全ての禁止薬物  
カテゴリーB：自然界に存在する禁止薬物

## 3) セール上場馬の薬物検査

検査件数 316 件 (日高軽種馬農業協同組合 239 件、  
千葉県両総馬匹農業協同組合 77 件)  
陽性件数 0 件

## 4) 騎手の薬物検査

検査件数 83 件 (中央競馬 32 件、地方競馬 51 件)  
陽性件数 2 件

## 5) その他の薬物検査

### (1) 国際交流競走出走予定馬の薬物検査

検査件数 23 件 (日本中央競馬会)  
陽性件数 1 件

### (2) 能力検査出走馬の薬物検査

検査件数 6 件 (帯広市)  
陽性件数 0 件

### (3) 陽性事例に関連した薬物検査

検査件数 51 件 (地方競馬主催者)  
陽性件数 0 件

(4) 育成馬のアナボリックステロイド検査

検査件数 80件 (日本中央競馬会)  
陽性件数 0件

(5) アナボリックステロイドの自主検査

検査件数 9件 (日本調教師会他)  
陽性件数 0件

(6) 馬術競技馬の薬物検査

検査件数 25件 (日本馬術連盟)  
陽性件数 0件

7) 薬物検査法審議委員会

(1) 委員

氏名	職名等
今井 一洋	武蔵野大学薬学部客員教授
尾崎 博	東京大学名誉教授
川原 貴	前国立スポーツ科学センター長
輿石 一郎	群馬大学大学院保健学研究科教授
下田 実	東京農工大学大学院農学研究院教授
豊島 聰	日本薬剤師研修センター理事長
吉田 武美	薬剤師認定制度認証機構代表理事

任期：平成28年4月1日～30年3月31日

(2) 委員会の開催

薬物検査法審議委員会を開催し、諮問した審議事項について承認を得た。

第53回薬物検査法審議委員会 7月25日

(審議事項)

競走馬薬物検査の方法及び判定基準の一部改正について

禁止薬物

尿を検査材料とする薬物検査の方法及び判定基準

「IV アナボリックステロイドの検査法及び判定基準 (MU-6)」の  
一部改正について

「V β受容体刺激薬及び遮断薬の検査法及び判定基準（MU-8）」の  
一部改正について

血液を検査材料とする薬物検査の方法及び判定基準

「I 塩基性薬物及び酸性薬物の検査法及び判定基準（MP-3）」の一部  
改正について

## 8) 公認競馬化学者協会（AORC）主催の技能試験への参加

AORC が各国の競走馬の薬物検査機関に対して毎年提供する技能試験に参加し、正答率 100%の成績を収めた。

## 9) AORC 年次総会等への出席

5月1日から5月3日まで、カタール国ドーハ市で開催された第20回 AORC 年次総会及びカタールアンチドーピング研究所シンポジウムに職員2名を派遣し、海外における薬物規制の動向や最新の検査技術等に関する情報収集と意見交換を行った。

## 10) 品質保証に関する活動

### (1) 審査の受審

試験所等の能力に関する国際規格である ISO/IEC 17025 認定の維持及び範囲拡大に対応するため、日本適合性認定協会による第8回定期サーベイランス及び新たに開発した薬物検査法に関する現地審査を受審した。

### (2) 内部監査及びマネジメントレビューの実施

ISO/IEC 17025 の規定に基づき、競走馬薬物検査の品質保証活動の一環として、内部監査を16回実施するとともに、マネジメントレビューを2回開催した。また、これら活動の前提となる業務記録については、すべて検証のうえ、永続的に保管した。

## 2 馬の DNA 型検査等に関する事業

### 1) 軽種馬の親子判定及び個体識別検査

検査件数	7,336 件	(ジャパン・スタッドブック・インターナショナル)
親子判定検査	6,971 件	
親子関係否定例	0 件	
個体識別検査	365 件	

## 2) 軽種馬の毛色の遺伝子検査

検査件数 799 件 (ジャパン・スタッドブック・インターナショナル)

## 3) 馬の新生子黄疸症予防のための血液検査

検査件数 83 件 (日本軽種馬協会)

## 4) その他の検査

### (1) 軽種馬以外の DNA 型検査

検査件数 10 件 (日本馬事協会)

### (2) 軽種馬以外の毛色の遺伝子検査

検査件数 3 件 (日本馬事協会)

### (3) 国外の在来馬の DNA 型検査

検査件数 65 件 (ブータン王国農業省)

### (4) ユニバーサルドナー選定のための検査

検査件数 23 件 (馬生産者他)

### (5) 性染色体の検査

検査件数 1 件 (馬生産者)

### (6) 競走馬の尿中の異物混入検査

検査件数 3 件 (岩手県競馬組合)

## 5) 国際動物遺伝学会 (ISAG) 主催のホースコンパリソンテストへの参加

ISAG が実施するホースコンパリソンテスト 2016-2017 に参加し、正答率 100%の成績を収め、ランク 1 を取得した。

## 6) 国際動物遺伝学会議への出席

7月16日から7月21日まで、アイルランド、ダブリン市で開催された第36回国際動物遺伝学会議に職員3名を派遣し、馬の親子判定及びDNA研究に関連するワークショップに参加し、海外における親子判定検査の動向や最新の研究に関する情報収集と意見交換を行った。

## 3 研究に関する事業

### 1) 日本中央競馬会からの委託研究

#### (1) 治療薬物の休薬期間の設定に関する研究

競馬の国際化の進展に伴い、薬物規制の国際ハーモナイゼーションが求められている。特に近年では、IFHAの主導の下、特定の治療薬を対象とするスクリーニングリミット(SL)に基づく薬物検査の導入が進められている。本研究においては、国内で治療のために使用される薬物の休薬期間を設定するために、SLに基づいて、検出時間(DT)を決定することを目的とする。

本年度は、デキサメタゾンメタスルフォベンゾエート、トリアムシノロンアセトニド及びベタメタゾンリン酸エステルを対象に、アジア競馬連盟薬物規制委員会の指針に従って馬への投与実験を実施し、経時的に採取した血液及び尿中の薬物とその代謝物の濃度を定量してDTを決定した。

(平成27年度から3年計画)

#### (2) 検出基準値を適用する禁止薬物の定量分析法の設定に関する研究

SLや残留限界値が設定されている禁止薬物のスクリーニング検査においては、検査材料中の検出対象物質の濃度が判定に用いられる。このため、正確に検出対象物質の濃度を定量できる分析法を設定する必要がある。

本研究では、液体クロマトグラフィー/タンデム質量分析法を用い、SLを適用する尿中クレンプテロール及びメトカルバモール並びに残留限界値を適用する尿中及び血漿中テオブロミンについて、それぞれ定量分析法を設定した。

(1年計画)



### (3) 競走馬における薬物の使用実態に関する調査・研究

新たに規制対象とするべき薬物の選定及び適正な薬物使用の推進のためには、薬物の使用実態を把握しておく必要がある。本研究においては、第1期(平成26～28年度)に引き続き、レース後に採取された検査材料、重篤疾患を発症した競走馬から採取された血液を対象に、広範な薬物の使用実態の調査を行う。

本年度は、ガスクロマトグラフィー/質量分析法及び液体クロマトグラフィー/高分解能質量分析法を組み合わせたブロードスクリーニング法を主体とした調査方法を用いて、日本中央競馬会から指定された薬物や海外において陽性報告があった薬物を中心に使用実態の調査を実施した。その結果、今後の薬物規制及び適正な治療薬の使用に関する有用な情報が得られた。

(平成29年度から3年計画)

### (4) 競走馬の呼吸器疾患における遺伝学的調査・研究

日本中央競馬会に在籍する競走馬を対象とし、競走馬の喘鳴症における遺伝的要因の関与を統計遺伝学的な手法により調査するとともに、分子遺伝学的手法により関連するゲノム領域を特定することを目的とする。

本年度は、競走馬情報管理システム(JARIS)データから、喘鳴症発症例に関する情報を抽出し、非線形モデルを用いた遺伝率推定により遺伝的要因の関与を調査した。また、喘鳴症発症歴のある競走馬72頭の血液サンプルからのDNA抽出を実施した。

(平成29年度から3年計画)

## 2) 委託研究成績の報告

平成28年度日本中央競馬会委託研究の成績を報告書に取りまとめ、7月5日に日本中央競馬会競走馬総合研究所において報告会を開催した。

## 4 一般化学分析事業

### 1) 馬伝染性子宮炎の検査

検査件数 2,040件 (日高家畜衛生防疫推進協議会他)

陽性件数 0件

#### 検査内訳

馬伝染性子宮炎侵入防止事業 1,204件

馬伝染性子宮炎蔓延防止事業 281件

その他(上記事業以外) 555件

## 2) 妊娠馬のホルモン検査

検査件数 (3月末まで) 64件 (馬生産者他)

## 3) 競走馬の遺伝子検査

### (1) スピード遺伝子検査

検査件数 147件 (馬主他)

### (2) 体高遺伝子検査

検査件数 146件 (馬主他)

## 4) その他

### (1) 木曾馬種の保存事業における受託研究

受託件数 1件 (木曾町)

### (2) 血漿中のレミフェンタニル濃度測定

受託件数 1件 (日本中央競馬会)

### (3) 血液中の非ステロイド性抗炎症薬検査

検査件数 3件 (日本軽種馬協会他)

## 5) 広報活動

競走馬の遺伝子検査の普及のために馬主、馬生産者、調教師等に対する説明やパンフレット配布等の広報活動を実施した。

月 日	場 所	イベント
4月25日	中山競馬場	JRA ブリーズアップセール
7月11日～7月12日	ノーザンホースパーク	セレクトセール

## 5 薬物検査体制の国際標準化事業

本事業は、IFHA による薬物検査機関の指定取得を目的として、IFHA が定義する広範な禁止薬物の検査が可能な検査体制を構築するために、日本中央競馬会の助成により平成 27 年から 4 年計画で実施している。さらに、本年度は、2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピックの馬術競技馬の薬物検査を実施することを目的とし、FEI の薬物検査機関の指定を受けるための申請準備に取り組んだ。

### 1) 高感度分析機器の導入

検査法の開発に必要な分析機器等を導入した。

名 称	数 量
液体クロマトグラフ高分解能質量分析計	1 台
自動固相抽出装置	2 台
入退室管理システム	1 式
質量分析解析データ統合管理システム	1 式
自動滴定装置 等	7 台

### 2) 薬物検査法の開発

馬の尿、血液及び被毛を検査材料として、IFHA が定義する禁止薬物のうち低分子薬物、ペプチドホルモン、タンパク同化剤や重金属等を対象に、スクリーニング検査法及び確認検査法の開発に向けた検討及び検証を実施した。その結果、尿を対象とする重金属、血液を対象とするタンパク質及び被毛を対象とするタンパク同化剤の検査法を確立した。

また、海外の薬物検査機関に役職員等を派遣して、薬物規制の動向や検査法の開発手法、分析技術等を調査した。

期 間	場 所	機 関 名	人員数
1 月 26 日～ 1 月 27 日	フランス共和国	Laboratoire des Courses Hippiques	2
2 月 25 日～ 3 月 9 日	〃	〃	2
3 月 19 日～ 3 月 25 日	アメリカ合衆国	カリフォルニア大学デービス校 Equine Analytical Chemistry Laboratory	2
10 月 2 日～10 月 5 日	スイス連邦	FEI 本部	1

## 6 競走馬の遺伝子ドーピング及び遺伝的健全性対策事業

本事業は、競走馬に対する不正な遺伝子操作の規制に対する取組みの推進を目的として、遺伝子ドーピング及び遺伝子改変（遺伝的健全性の損失）の痕跡を検出するための分析法を開発研究するため、日本中央競馬会の助成により平成 29 年から 3 年計画で開始した。

### 1) 高感度分析機器の導入

分析法の開発に必要な分析機器等を導入した。

名 称	数 量
リアルタイム PCR・SNP 解析装置	1 台
次世代シーケンサー	1 台
次世代シーケンサー塩基配列データ解析システム	1 式
ゲノム配列データ分析システム	1 式
DNA 抽出精製装置 等	12 台

### 2) 遺伝子ドーピング及び全遺伝情報の検出技術の開発

遺伝子ドーピングへの使用が想定される遺伝子（エリスロポエチン遺伝子等）とベクター<sup>\*1</sup>を選定し、それらの検出に使用するプローブ<sup>\*2</sup>を作成して、定量的に検出する方法を検討した。また、遺伝子改変の痕跡を検出する全ゲノム解析法を開発するため、父・母・子の遺伝的関係について検討を行い、親子間変異の割合及び遺伝継承の一致率を調査した。

また、国際会議、海外の研究機関等に職員を派遣して、海外の遺伝子ドーピング及び遺伝子改変に関する動向や最新の分析技術及び開発手法について情報収集と意見交換を行った。

期 間	場 所	機関・会議名	人員数
3月29日～4月2日	オーストラリア連邦	シドニー大学獣医学部、 オーストラリア国立計測研究所、 レーシング・オーストラリア科学会議	1
7月16日～7月21日	アイルランド	第36回国際動物遺伝学会議	1
12月6日～12月10日	中華人民共和国 香港特別行政区	IFHA 遺伝子ドーピング規制小委員会	1

※<sup>1</sup>ベクター：外来遺伝子を細胞内に導入するために用いられる物質のことで、主にウイルスやプラスミドが使用される。

※<sup>2</sup>プローブ：蛍光物質等で標識を施した合成 DNA。特定の遺伝子やウイルスを検出する目的で使用する。

## 7 事業成果の発表等

研究成果の一部については、学会発表、論文報告を行った。また、事業活動の一環として、技術指導、講師派遣、見学受入れを実施した。

### 1) 学会発表等

表 題	報告学会等
薬毒物試験法 II-4 向精神薬試験法 パルピツール酸誘導体	日本薬学会第 137 年会
インソース CID による直線範囲制御の汎用性に関する検討	〃
Characterization of equine STR panel “15TKY system” by imputation from dense SNP genotypes in a Thoroughbred population	第 36 回国際動物遺伝学会議
A genome-wide association study for body weight in Japanese Thoroughbred racehorses clarified candidate regions near LCORL, ZFAT and MSTN genes	〃
競走馬への遺伝子ドーピングに対する検出系の開発	第 160 回日本獣医学会学術集会
STR マーカー分析からみた日本のサラブレッド集団の遺伝的構成の推移	日本動物遺伝育種学会 第 18 回年次大会
日本および英米で繁養されるサラブレッドの遺伝的構造の相違	〃
ゲノムワイド SNP による日本在来馬の遺伝的構造および系統解析	日本ウマ科学会第 30 回学術集会
競走馬の遺伝子ドーピングおよび遺伝的健全性の毀損への対策に関する研究（第一報）	第 59 回競走馬に関する調査研究発表会

2) 論文報告等

表 題	報 告 誌
A genome-wide association study for body weight in Japanese Thoroughbred racehorses clarifies candidate regions on chromosomes 3, 9, 15 and 18	Journal of Equine Science Vol. 28(4), 127-134
遺伝子治療などに関わるパリ協約の改訂方針および遺伝子ドーピングの検査法開発	馬の科学 Vol. 54(3), 215-220
Expanding the versatility of a quantitative determination range adjustment technique using in-source CID in LC/MS/MS.	Chromatography Vol. 38, 59-63
ウマゲノム情報が産業界にもたらすもの	JATAFF ジャーナル Vol. 5(9), 25-30 (農林水産・食品産業技術振興協会)

3) 技術指導等

月 日	依 頼 元	内 容	員数 (名)
2月8日	岐阜大学 応用生物科学部	ウマの遺伝学的分析技術	1
6月20日	日本大学 生物資源科学部	ウマの遺伝に関する統計解析技術	1
8月15日	鹿児島大学 共同獣医学部	ウマの遺伝学的分析技術	1
10月19日 ～10月20日	ジャパン・スタッドブック・ インターナショナル	DNA型検査に関する基礎知識	1

4) 講師の派遣

月 日	依 頼 元	内 容	員数 (名)
2月4日 4月8日 7月1日 11月25日	昭和大学大学院 医学研究科	生体の機能解析法 「遺伝医学の基礎」	1
2月10日	盛岡競馬場及び 水沢競馬場	競走馬の禁止薬物	1
4月17日	岐阜大学 応用生物科学部 共同獣医学科	馬臨床学 「馬学一般」	1
4月26日	東京農業大学 農学部 農学・畜産学・バイオ セラピー学科	「競走馬の科学」～ゲノム科学と遺伝学 からサラブレッド種を考える～	1
10月11日	日本軽種馬協会	馬伝染性子宮炎 –採材法と治療法– に 関する講習会 「PCR 検査について」	1

5) 見学者の受入れ等

月 日	見学者等	内 容	員数(名)
2月6日	日本中央競馬会 理事他	所内見学	4
2月7日	日本中央競馬会 総合企画部 関連事業室長他	〃	2
2月16日	地方競馬全国協会地方競馬教養センター 調教講習生	所内見学・講習	3
3月7日	農林水産省 生産局畜産部競馬監督課	所内見学	4
3月15日	地方競馬全国協会地方競馬教養センター 騎手候補生	所内見学・講習	8
4月7日	日本装蹄協会 装蹄教育センター 装蹄師認定講習会講習生	〃	13
4月20日	地方競馬全国協会 新規採用職員	〃	7
5月17日	日本中央競馬会 競馬学校 厩務員課程生	〃	26
6月20日	日本中央競馬会他 新規採用獣医職員	〃	8
9月6日	日本中央競馬会 理事他	所内見学	4
10月5日	地方競馬全国協会地方競馬教養センター 調教講習生	所内見学・講習	3
11月17日	日本中央競馬会 競馬学校 厩務員課程生	〃	27
11月20日	日本中央競馬会経理部長	所内見学	1
12月14日	日本中央競馬会 総合企画部長他	〃	6

### Ⅲ 総務関係

#### 1 評議員及び評議員会

##### (1) 評議員

氏名	職名等	区分
岩元 正文	ジャパン・スタッドブック・インターナショナル 理事	3月14日就任  4月1日就任
木所 康夫	日本中央競馬会 常務理事	
木村 一人	日本中央競馬会 理事	
釘田 博文	国際獣疫事務局 アジア太平洋地域代表	
鈴木 邦則	全国公営競馬主催者協議会 常任理事	
田原 文夫	すかいらく 社外監査役	
留守 悟	地方競馬全国協会 理事	
井上 真		3月14日辞任
森 彪		3月31日辞任

任期：平成 30 事業年度に関する定時評議員会の終結の時まで

##### (2) 評議員会の開催

評議員会を次のとおり開催した。

第1回評議員会 3月14日

(決議事項)

第1号 平成28年度事業報告及び決算について

第2号 役員の改選について

第3号 評議員の選任について

第2回評議員会 3月31日（書面による決議の省略）

(みなし決議事項)

議案 評議員の選任について

第3回評議員会 9月14日（書面による決議の省略）

(みなし決議事項)

議案 理事の選任について



## 第4回評議員会 12月8日

### (決議事項)

第1号 平成30年度事業計画及び収支予算について

第2号 公益財団法人競走馬理化学研究所役員及び評議員の報酬等の支給に関する  
規程の一部改正について

## 2 役員及び理事会

### (1) 役員

役職名	氏名	経歴等	区分
理事長 (常勤)	益満 宏行	日本中央競馬会 監事	3月14日付再任
	安斉 了		9月30日付辞任 10月1日付就任
常務理事 (常勤)	武田純太郎	競走馬理化学研究所研究部長	3月14日付 任期満了退任
	黒澤 雅彦		3月14日付再任
	岩崎 幸治		3月14日付就任
理事 (非常勤)	兼丸 卓美	日本中央競馬会競走馬総合研究所 技術参事役	3月14日付再任
監事 (非常勤)	谷口 稔明	全国家畜畜産物衛生指導協会 参与	3月14日付再任
	佐藤 信博	日本中央競馬会 馬事部上席調査役	3月14日付再任

任期：平成29年3月14日～平成30事業年度に関する定時評議員会の終結の時まで

### (2) 理事会の開催

理事会を次のとおり開催した。

#### 第1回理事会 2月21日

##### (決議事項)

第1号 平成28年度事業報告及び決算について

第2号 役員改選候補者の選定について

第3号 平成29年度第1回評議員会の招集について

第4号 公益財団法人競走馬理化学研究所職員就業規則の一部改正について

第5号 参与及び嘱託に関する規程の一部改正について

(報告事項)

1. 平成 29 年度第 1 回財産運用検討会の審議結果
2. 平成 28 年度収支予算の流用結果

第 2 回理事会 3 月 3 日 (書面による決議の省略)

(みなし決議事項)

- 第 1 号 評議員候補者の選定について
- 第 2 号 平成 29 年度第 1 回評議員会議案の追加について

第 3 回理事会 3 月 14 日

(決議事項)

議案 代表理事及び業務執行理事の選定について

第 4 回理事会 3 月 24 日 (書面による決議の省略)

(みなし決議事項)

- 第 1 号 評議員候補者の選定について
- 第 2 号 評議員会の決議の目的である事項の提案について
- 第 3 号 公益財団法人競走馬理化学研究所組織規程の一部改正について
- 第 4 号 公益財団法人競走馬理化学研究所職務権限規程の一部改正について
- 第 5 号 公益財団法人競走馬理化学研究所職員給与規程の一部改正について
- 第 6 号 職員給与規程実施基準の一部改正について

第 5 回理事会 6 月 30 日

(決議事項)

- 第 1 号 役員の報酬について
- 第 2 号 弔慰規程の一部改正について
- 第 3 号 文書取扱規程の一部改正について
- 第 4 号 参与及び嘱託に関する規程の一部改正について
- 第 5 号 研修規程の一部改正について
- 第 6 号 旅費規程の一部改正について

(報告事項)

理事の職務の執行状況

## 第6回理事会 9月6日（書面による決議の省略）

### （みなし決議事項）

- 第1号 理事候補者の選定について
- 第2号 平成29年度第3回評議員会について
- 第3号 競走馬薬物検査の方法及び判定基準の一部改正について

### （みなし報告事項）

- 第53回薬物検査法審議委員会の審議結果

## 第7回理事会 10月1日（書面による決議の省略）

### （みなし決議事項）

- 議案 代表理事の選定について

## 第8回理事会 11月22日

### （決議事項）

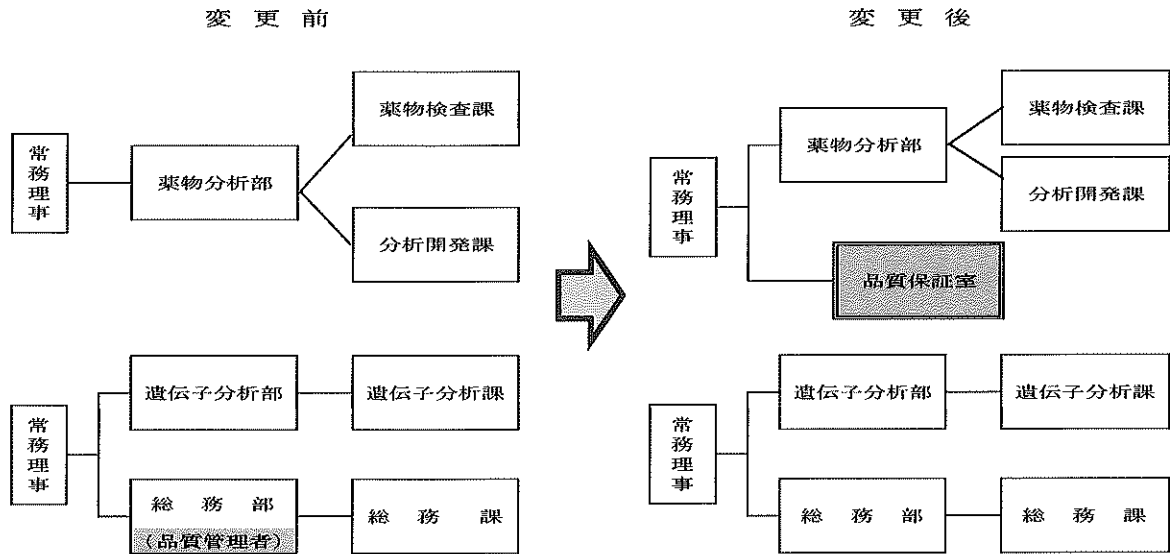
- 第1号 平成30年度事業計画及び収支予算について
- 第2号 公益財団法人競走馬理化学研究所役員及び評議員の報酬等の支給に関する規程の一部改正について
- 第3号 平成29年度第4回評議員会の招集について
- 第4号 公益財団法人競走馬理化学研究所組織規程の一部改正について
- 第5号 単身赴任手当支給内規の一部改正について
- 第6号 家事援助制度実施規程の一部改正について
- 第7号 平成30年度競走馬理化学研究所における薬物検査体制の国際標準化事業実施要領の制定について
- 第8号 平成30年度競走馬理化学研究所における競走馬の遺伝子ドーピング及び遺伝的健全性対策事業実施要領の制定について

### （報告事項）

1. 理事の職務の執行状況
2. 平成29年度第2回財産運用検討会の審議結果

## 3 組織の変更

ISO/IEC 17025 の認定の維持及び範囲拡大等、品質保証活動を強化するため、4月1日付で新たに品質保証室を設置し、3部4課から3部1室4課とした。



#### 4 人事異動

- 1) 職員 採用 1名 退職 1名
- 2) 嘱託 採用 5名 退職 2名

#### 役職員等の状況

区 分		1月1日現在	12月31日現在
役員	理 事	4 (1)	4 (1)
	監 事	2 (2)	2 (2)
参 与		1	1
職員	総 務 部	7	4
	薬 物 分 析 部	19	21
	遺 伝 子 分 析 部	6	6
	品 質 保 証 室	—	1
	小 計	32	32
嘱託	総 務 部	2	3
	薬 物 分 析 部	7	8
	品 質 保 証 室	—	1
	小 計	9	12
合 計		48 (3)	51 (3)

括弧内は、非常勤の人数で、内数である。

## 5 附属明細書の省略

この事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はないため、省略した。